

# 児童一人一人を多方面から認め、自尊感情を高めるための取組

提案者 宇都宮市立石井小学校 教諭  
坂 本 香 利

## 1 はじめに

最近、児童と接している中で、やる気がもてず、授業中の活動に取り組めない子や取りかかってもすぐに諦めてしまう子など意欲的に学校生活を送れない児童や、相手に思いを伝えることが苦手なため、些細なことで争いが起き、円滑な友人関係が築けない子が増えていると感じている。そのような児童の背景には、自尊感情の低さがあるのではないかと考えた。自尊感情は、「自分に対する肯定的な感情」であり、人ととの肯定的なかかわり体験を基盤として育まれていく。

本研究では、様々な集団での認め合う活動を通して、自尊感情を育て、高めていく方法を追及しようと考えた。認め合う活動は、縦割り班活動と学級の中で行い、児童や教職員のアンケート調査などから考察・検証した。本研究を通して、児童一人一人の自尊感情を育むためには、他者からの承認、励まし、評価、共感の経験を積むことができる認め合う活動が有効であることが確認できた。また、教職員が児童の新たなよさを発見し承認することで、児童のさらなる自尊感情の高まりが期待できることが分かった。

今回は、これまで行ってきた様々な場面での『認める』かかわりの実践例を紹介する。

## 2 提案内容

### (1) 基本的な考え方

- ① 自尊感情とは
  - ・自分の短所や欠点も含めて、自分で自分を価値あるものとする感覚
- ② 日本の現状
  - ・「我が国と諸外国の若者の意識調査」より、日本の若者の自尊感情は低い。
- ③ 自尊感情と肯定的なかかわり体験との関係
  - ・認められることは自尊感情の育成や高まりに必要不可欠である。

### (2) 研究の方法

- ① 実態把握
  - ・学習と生活に関するアンケート、Q-U検査、教育相談や行動観察等
- ② 学級での取組（今日のキラキラ賞・気になる子の観察と記録）
  - ・キラキラカード、アンケート、行動観察等
- ③ 縦割り班（清掃活動振り返り・児童会活動振り返り）での取組
  - ・ほめほめカード、アンケート、行動観察等
- ④ 学校全体での取組
  - ・ほめほめカード、ほめほめメモ、行動観察等

### (3) 研究の実際

- ① 実態把握
  - ・学習と生活に関するアンケートの結果より、全体的に自尊感情が低い傾向にある。
  - ・Q-U検査、教育相談、普段の児童の様子等により、気になる児童を把握する。

## ② 学級での取組

### 【今日のキラキラ賞】

毎日帰りの会で発表する。クラスの児童全員がカードを書く機会を定期的にもつ。カードは教室後ろ黒板に掲示し、学級全体で共有する。担任も児童のよさが見とれた時にカードを記入し、年度内にどの児童にもカードを書くことができるようとする。

※学年やクラスの実態に合わせて形式を工夫する。

### 【気になる子の観察・記録】

Q-Uの結果等から気になる児童をピックアップし、その児童に対して特に積極的なかかわりをもつ。

※前任校での実践と結果を紹介

## ③ 縦割り班での取組

### 【清掃活動】

清掃場所が変わる前に振り返りとして行う。清掃班みんなで一人一人の頑張りを認め、カードに書く。書いたカードは教室に掲示し、学級で共有する。清掃担当者は、子供たちでは見とれなかつた良さを発見し、承認する。

### 【児童会活動】

長縄大会後、振り返りとして行う。練習や本番の一人一人の頑張りを認め、カードに書く。書いたカードは教室に掲示し、学級で共有する。児童会担当者は、子供たちでは見とれなかつた良さを発見し、承認する。

※前任校での実践と結果を紹介

## ④ 学校全体での取組

### 【ほめほめカード】

人権週間の期間中、校内人権週間の取組として実施。児童が、学級、縦割り班（清掃班）、家庭、3つの方面から認められる経験がもてるようとする。家庭には、学年便り12月号で取り組みの内容についての説明とお願いを掲載し、週末にカードを持ち帰り書いていただいた。カードは教室に掲示し、学級で共有する。担任は、カードに書いてあることを承認し、児童のよさが学級で生かされるよう配慮する。

### 【ほめほめメモ】

職員室に常時置き、職員が、学年クラス問わず、清掃活動や児童会活動、クラブや委員会等、児童のよさを見とれた時に記入し、担任に渡す。受け取った担任は、該当児童に伝え、承認する。校内人権週間においては、積極的に取り組んでほしいとの願いから、一人10枚配布し、実践した。

## 3 成果と今後の課題

### (1) 成 果

- ・縦割り班活動や学級での認め合い活動などの児童同士の肯定的なかかわり体験は、自尊感情を高めていくのに有効であることが確認できた。
- ・一人の児童を多くの教員が多方面から見て、認めることにより、児童は自信をもって学校生活を送ることができ、児童のさらなる自尊感情の高まりが期待できることが分かった。

### (2) 課 題

- ・学校生活の大半である授業の中で児童を認め、さらに児童の自尊感情を高めていく必要がある。
- ・自尊感情の育成には、家庭での家族とのかかわりも重要であることから、引き続き、学校と家庭との両側から児童を支援していく必要がある。